原っ子

学校だより №41（通算84号）
令和６年２月２日
小郡市立大原小学校
校長　山本貴澄　Tel 72-5500

合言葉「チャレンジ！ みんなで学ぶ やりとげる」
２月前半のめあて「時間を守って生活をしよう」※時計を見て行動！

【おいしい給食をありがとうございます！】

全国学校給食週間（1/24～30）の取組

前号では、給食委員による紙芝居の読み聞かせを紹介しました。この全国学校給食週間の取組は、子どもたちが給食の意義を理解し、給食に関わっている人々に感謝の気持ちをもつことができるようにすることがねらいです。調理員さんや給食業者さんには、学級ごとに感謝の気持ちを伝えます。上の写真は、１年２組が調理員さんにメッセージ入りの日めくりカレンダーを渡しているところです。みじたくタイム記録会の取組では、給食当番が全員エプロンを着け終わるまでの時間を計り記録します。５日間で一番いい記録を記録証にして渡しました。給食感謝名人の取組では、給食当番が給食室で「いただいていきます」と「ごちそうさまでした」のあいさつを心をこめて大きな声ですることをめあてとしました。６年生には、新型コロナウィルス感染症の影響でしばらく中止になっていた「バイキング給食」が復活します。小学校最後の給食の日です。楽しみですね。

学校給食の始まりは明治２２年、山形県鶴岡町（現在は鶴岡市）にある小学校で、お弁当を持ってこられない子どもたちのために無料で食事を提供したことからといわれています。戦後、栄養失調の子どもたちを救うために、外国からの援助で給食が再開されました。昭和２１年１２月２４日に新しい学校給食が始まり、この日を「学校給食感謝の日」としましたが、冬休みに入ってしまうので、１か月後の１月２４日からの１週間を「全国学校給食週間」としました。現在の学校給食は、偏った栄養摂取をはじめ生活習慣病の増加など、子どもたちの健康状態が心配されることから、バランスのよい食事のお手本として、「生きた教材」の役割を担っています。食育基本法の理念から、地域の食材を使った料理や、郷土料理を伝えることなども重視されるようになりました。

第３回学校運営協議会を開催

学校運営協議会は、学校と家庭、地域が力を合わせて「地域とともにある学校」を目指して取り組むための組織です。元 PTA 役員さん、校区代表区長さん、まちづくり協議会会長さんなど地域と学校職員１０名で構成され、学校運営へのご意見やご協力をいただいています。年４回会議をもち、１月２３日（火）に第３回目を行いました。今回は、１２月に実施した標準学力調査や保護者アンケートの結果、職員による学校運営への評価などを報告し、今年度の学校の成果や課題について協議しました。学力調査の結果や保護者アンケートの結果は、順次お知らせしていきます。

熟議では、「あいさつ」について話し合いました。委員さんからは、「自分からあいさつする子が少ないようです」との意見も出されました。学校では、運営委員会の子どもによるあいさつ運動やあいさつボランティアに取り組んでいます。あいさつはコミュニケーションの基本ですし、自分から感じのいいあいさつができる子のほうが印象もよく、信頼関係も築きやすいと思います。ご家庭でも、あいさつの習慣が身に付くように気持ちのよいあいさつを交わしていただければと思います。

４回目は２月２９日（木）に開催し、各委員さんからいただいた評価をもとに改善策を報告して来年度への取組につなげていきます。

＜小郡市立小・中学校の令和５年度卒業式、令和６年度入学式の日程＞

行事名	小学校	中学校
卒業式	３月１４日（木）	３月　８日（金）
修了式	３月２２日（金）	３月２２日（金）
始業式	４月　５日（金）	４月　５日（金）
入学式	４月１１日（木）	４月１０日（水）

３年生 韓国について学びました！
～それぞれの国のよさがあり、ちがう意見も取り入れて～

【ハンボク（チマチョゴリ）】

【韓国の伝統の遊び
トゥホ（投壺）】

３年生は、総合的な学習で、「ちがい発見！世界の祭りを楽しもう」というテーマに取り組み、小郡の祭りや他国の祭りについて調べます。１２月には国語で「三年とうげ」という韓国の民話を学習したので、今週の水曜日に講師のコン・ギョンミ（孔京美）さんをお招きして韓国について知る機会をもちました。韓国の言葉や文化、伝統行事などについてたくさん知ることができました。学習の最後に、コン・ギョンミさんは、それぞれの国のよさがあり、ちがう意見でもなぜちがうのかを考えたり、取り入れようとしたりすることも大切だと教えてくれました。

【子どもの感想】

コン・ギョンミ先生へ　今日、３、４時間目の学習でかん国の食事や字、祭りについて学びました。そして、日本とかん国の位ちなども学びました。わたしが一番おどろいたのが、かん国ではおかずは何回でもおかわりをしてもお金が取られないことや「アンニョンハセヨ」は、朝昼夜全部使われることです。今日は、かん国のいろいろな言葉や祭り、食事や遊びについて教えてくれてカムサハムニダ
わたしは、今日の学習で日本とはちがうところがあるけど、それぞれの国のよさがあるということを学びました。かん国のことをくわしく知れてよかったです。とくにいんしょうにのこったことは、ハンボク（いしょう）です。これがあるということをはじめて知れてうれしかったです。それぞれいろいろな色があって、またうけつがれていることがとてもすてきだと思いました。今回は、かん国のでんとう文化など教えてくださりありがとうございました。とても大切なこと（ぞれぞれ国のよさがあること）を知ることができました。いい時間になりました！

小郡市同和問題市民講演会（延期分）のお知らせ
～だれもが笑顔でいられる社会にむけて～

福岡県では、毎年７月を「同和問題啓発強調月間」と定め、各地で部落差別をはじめとするあらゆる差別を解消するための取組をしています。人が人として尊重されなければならないのは当然のことですが、いろいろな場で人としての権利が守られていない課題が残されています。私たち学校職員も、一人ひとりの子どもの思いや願いを大切にしながら、人権感覚豊かな人間として生きていける力を育てていきたいと考えています。そのために学校をあげての実践（人権・同和教育）に日々取り組んでいます。

小郡市でもこの期間にあわせて、毎年同和問題市民講演会を開催しています。今年度も７月に開催する予定でしたが、大雨により延期になりました。今回改めて開催されますので、ご都合がつかれましたらぜひご参加ください。

日時：２月３日（土）１３時３０分開場　１４時開演 会場：小郡市生涯学習センター　七夕ホール 対談：西田昌矢さん＆組坂繁之さん「差別をなくし人権を確立するために」 「部落差別？もう無くなったのではないか」という声も聞かれます。しかし、インターネット上では今なお差別を助長するデマや誹謗中傷が後を絶ちません。本対談では、当事者の「思い」にふれることで「人権とは」「差別とは」について深く掘り下げます。 ※講演会のチラシより
【同和問題とは】 被差別部落に生まれた、もしくはその出身者という理由だけで、結婚や就職差別において不当な扱いを受け、基本的人権が侵害されてきた、今もなお日本が抱える深刻な人権問題です。近年では、インターネット上に部落差別を助長する悪質な動画が公開されたり、誹謗中傷が書き込まれたりするなど、インターネットの匿名性と拡散性を悪用した差別事象が相次いでいます。